



# 人に頼らず自分の力で

## 富岡の通所者ら20人稲刈り

富岡市後買の知的障害者通所施設施設、上州水士舎(金谷透施設)は、十七日まで延べ五日間にわたり、三十町の田の稲刈りを手作業で行った。田植えは市内の企業などから参加したボランティアの手を借りたが、稲刈りは一人の善意に頼らず、自分たちの力でやってみよう」と総勢二十人ほどでとりかかり、やり遂げた。

富岡市後買の知的障害者通所施設施設、上州水士舎(金谷透施設)は、十七日まで延べ五日間にわたり、三十町の田の稲刈りを手作業で行った。田植えは市内の企業などから参加したボランティアの手を借りたが、稲刈りは一人の善意に頼らず、自分たちの力でやってみよう」と総勢二十人ほどでとりかかり、やり遂げた。

今年四月に開設された上州水士舎は、ハム、ソーセージの製造を主に、近くの耕地を借りて米作りや養蚕にも挑戦している。稲は農業学校で使わず、有機肥料で育てられた。施設内には養蚕の知識のあるスタッフがおり、上州水士舎の職員が折は養蚕の知識を指導をして

くれたおかげで、豊かな実りの秋を迎えられた。

通所者は十八歳から五十歳代まで年齢は幅広い。かまで稲を刈るのは大変な重労働のため、疲れて座り込んでしまいう若手も目立ったが、手際よく黙々と作業を続ける農家出身者もいた。刈った稲は、いよいよ束ね、竹を組んで乾燥させている。

金谷施設長は「二十一年前なら当たり前の作業。大変だったが、施設への帰属意識や連絡感を新たにし、再確認できた」と話している。